

『日本と世界とのつながりを感じて』

| | |
|-------------------|-----------------|
| 学校所在府県：大阪府 | 実践教科：教員研修（教育課程、 |
| 学 校 名：高石市教育委員会事務局 | 人権教育、初任者研修） |
| 教育指導課 | 指導時数：3 時間 |
| 名 前：山崎 陽子（指導主事） | 対象学年：教員対象 |
| | 対象人数：40 名 |

1. 教師海外研修を通して感じたこと

本研修で指導主事として一番大切にしたことは、自分自身がブラジルを身近に感じ、本市の先生方や子どもたちに学んだことをどれだけ還元することができるかについてだ。今回の研修では視察が教育施設だけでなく、オンダリンパや宇宙研究所などの公共施設、市場など人びとの生活に根ざした場所、CAMTA、ACTA の文化協会や農業組合など、ブラジルについて全般的に見学できたことは、とても新鮮であり、実りがあった。オンダリンパの施設見学では、「下水道処理」が人びとの生活に及ぼす影響を考えさせられた。下水処理をすすめることで乳幼児の死亡率が低下していることは、下水処理がいかに重要であるかを痛感した。日本では当たり前にある下水処理が、ブラジルの大都市でも100%の水準に達しておらず、依然開発途中であること「日本との当たり前は世界の当たり前ではない」と改めて感じた。

普段は、教育現場の方々と接する機会が多いが、いろんなジャンルの方々と交流できたことも、とても勉強になった。特に、CAMTA でお会いした小長野さんのお話しは、大変勉強になったし、誇りに思えた。日本から異国ブラジルへと移民され、自分の道を切り開かれている姿を目の当たりにし、「自分は今後何をやるべきなのか、仕事でも人生でも何をすべきなのか」考えることが多かった。また、ホームステイ先では、日系ブラジル人の結びつきや歴史も垣間見ることができ、日系3世、4世の方々とも交流ができ、世代間の様々な考えにふれることができた。

本研修で学んだことを様々な場面で還元したいという思いから、世界の今を「伝えたい」気持ちがさらに大きくなった。同時に、自分の声を通して教員の方々や子どもたちに世界を感じる広い視野をもつことの大切さを伝えたい。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

本市でも、教職員の世代交代が進み、1～5年目の若手教員が増えているのが現状である。また、中堅の教員が少ないこともあり、様々な年代の教員の指導力向上が市全体としての課題である。そこで、本研修を通して、本市教育委員会として、この研修・視察を受けて以下の3つの視点で教員研修を企画した。

- ① 現在の学習指導要領にも記載されている「ESD」の観点をどのように授業に取り入れていくかについて学ぶ、教務主任向けの教育課程研修
- ② 在日外国人教育について考える人権教育研修
- ③ 生産者や消費者の観点から、フェアトレードについて学ぶ初任者研修

現在、文部科学省が進めているグローバル人材の育成やESDについては、本市も力をいれている。ブラジルでの視察を活かして、教員研修を行うことにより、研修に参加した教員の「世界に目をむけた」視野が広がり、その視点を授業に取り入れることができると考える。また、そのような授業を受けた子どもたちの視野も広がり、ESDが示す子どもたち自身が一つの問題について、自分たちの問題としてとらえ、問題解決のために具体的な行動にうつすことができる「きっかけ」づくりにもなると考え、本研修を実施する。

(2) 授業の構成

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|--|---|---|
| 1 時限目 教務主任向けの教育 課程研修「ESD」とは、 何か？ * ESD について知り、授業 でどのように取り入れて いくか考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● ESD の概要を説明する。 ● ワークショップを行う。 コーヒー Q & A ● コーヒー生産者の生活について知る。 ● 研修のふりかえりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教材プリント ● 世界地図 ● 写真 ● パワーポイント |
| 2 時限目 人権教育研修 在日外国人教育に ついて * 異文化間のギャップやジ レンマに直面する外国人 に対して学校現場で何が できるかについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 現在の在日外国人教育の概要 ● ワークショップを行う。 ジュンくんに何が起きたのか？ ● 研修のふりかえりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教材プリント ● メッセージカード ● 発表シート ● パワーポイント |
| 3 時限目 初任者研修 フェアトレードについて * 生産者にとって望ましい 取引について考え、より よい貿易のありかたにつ いて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● フォトランゲージでチーム分け。 ● ワークショップを行う。 いい貿易ってなんだろう？ ● 研修のふりかえりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教材プリント ● 生産者一家の境遇 カード ● 誘惑カード ● パワーポイント |

3. 授業の詳細

1 時限目：「ESD」とは、何か？

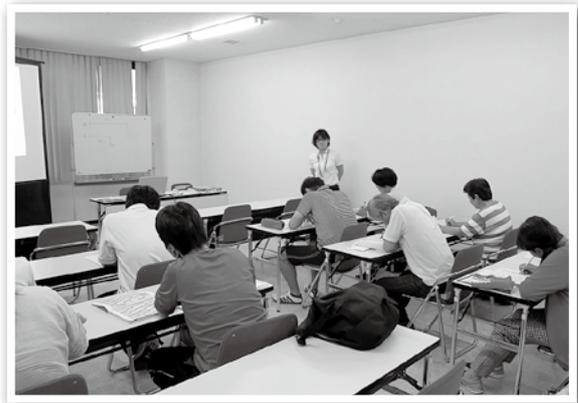
ねらい…ESD について知り、授業でどのように取り入れていくか考える。

◆内容◆

- ① ESD について、理解する。
- ② ワークショップとして、普段に身近に飲まれている「コーヒー」の基礎知識について、クイズを行う。
 - ・ コーヒーの実の色
 - ・ 日本のコーヒーの年間消費量
 - ・ コーヒーの消費量の上位三国
 - ・ コーヒーの生産量の上位五国
- ③ コーヒーの生産国（ブラジル、エチオピア、インド等）の生活状況を理解する。
 - ・ コーヒーを需要しているのは、おもに先進国であり、世界全体で毎年 2% 以上にのびていること、
 - ・ 生産国は、ブラジル（35%）を含む中南米が約 50% を占め、アフリカで約 7%、アジアで約 30% を占めている。近年、ベトナムの生産が急激に増えている。しかし、コーヒーは霜害に弱く、気候の影響を受けやすい。それゆえ、コーヒー生産者の生活は安定しにくい。
 - ・ コーヒーの主要生産国の生活状況（5 歳児未満児死亡率、丹生与治の死亡率、1 人当たりの GNI、出生時の平均余命、成人の総識字率、インターネット利用者 2014 年現在）の表を見せ、各国の生活状況を比較し、自分たちの生活と照らしあわせる。
- ④ ふりかえりとして、今回のワークショップを通して、授業の中で ESD をどのように取組んでいくかについて考える。



ESD 解説



教育課程研修参加教員の様子

！ココがポイント

コーヒー基礎知識だけに終始するだけでなく、コーヒー生産者の生活に目をむけ、自分たちの生活と比較することや先生方が授業で使うには、どの観点に注意すべきかを伝えることを重視した。

教員の反応

- ▶ 自分たちが身近に飲んでいるコーヒーでワークショップができることに、素直に驚いていた。
- ▶ コーヒーの実の写真をみると、先生方から「わー」と声があがり、驚かれていたことが印象的。
- ▶ コーヒー生産国の生産状況の表で各国を比較するとき、自分たちならどんな風な授業に使うか考えており、「ESD」の大切さを学んでいた。

教員の感想

- ▶ 今日の研修で、子どもたちにも身近なコーヒーが授業の題材になるのかと驚いた。5年の担任をしているので、社会科や総合的な学習の時間を使って、授業に取り入れたい。
- ▶ 「ESD」を今まで意識して、授業をしてこなかったのが今回の研修で学んだことを、学校に持ち帰りどんなことができるか考えたい。

◆所感◆ 教務主任向けの研修をすることにより、学校全体で各教科の年間指導計画で効果的に取り入れていけるかに重きをおき、研修した。ESDは難しい題材でなく身の回りのもの(今回は、コーヒー)を通して、授業に取り入れることができることが、先生方に伝わったことは成果があった。

2 時限目：人権教育研修（在日外国人教育）

ねらい…異文化間のギャップやジレンマに直面する外国人に対して学校現場で何ができるかについて考える。

◆内容◆

- ① 写真を見せながら、日系ブラジル人について、歴史的背景について知る。
 - ・ブラジルには、現在約 150 万人の日系人が生活。
 - ・1908 年、最初の移民船「笠戸丸」がサントス港に到着してから、約 25 万人もの日本人がブラジルに移住。
 - ・苦難・困難をのりこえ、現在、日系ブラジル 6 世まで誕生している。

- ② ワークショップ（ジュンくんに何が起きたのか？）を行う。
- ・ 3～4人程度のグループにわける。
 - ・ 状況設定シートを読み上げる。
 - ・ ワークシート（ジュンくんに何が起きたのか？）を配布する。
 - ・ 各グループの代表者が封筒の中、（ジュン君の周辺の人びとの言葉）を1枚ずつ取りに行き、グループに持ち帰り読み上げる。→この作業を繰り返す。
 - ・ カードにかいてある情報をもとに、ワークシートの問いに答える。
 - ・ ジュン君の直面している問題について、グループで話し合う。
 - ・ その問題を解決するために、学校ができることについて考える。
- ③ ふりかえりとして、今回のワークショップを通して、学校として在日外国人教育にどのように取組んでいくかについて考える。



トメアス日本人学校



人権研修の参加教員の様子

！ココがポイント

- ▶ 現在、日本には外国にルートをもちつ児童・生徒は、7万3千人で、その中に日本語指導を必要とする児童・生徒が3万7千人いることをおさえる。
- ▶ 本市にもそのような児童・生徒がおり、その子たちの抱える生活背景を理解すること、学校ができることは何かについて、考えることができるようにする。

教員の反応

- ▶ ジュン君の抱える問題について、「周辺の人びとの言葉」から理解し、学校で何ができるかについて熱心に考える姿が多くみられた。
- ▶ 先生方が真剣にワークに取り組み、グループでの話し合いの中で、在日外国人教育は、「担任だけでなく、学校全体として取り組んでいくべきだ」という意見が出されたことが印象的だった。

教員の感想

- ▶ 外国にルーツのあるこどもは、私のクラスにもいます。普段は、クラスの中でいきいきとしています。保護者の方に聞くと、学校生活に不安がある時もあるとおっしゃっていました。この研修を通して、学校で何ができるかをもう一度考えるきっかけとなりました。
- ▶ 中学校にあがると、まず進路保障が必要になります。私たち教師は、子ども一人一人の進路を保障する必要があります。保護者の方も一緒になって、子どもたちの「未来」を大切にしていかなければならないと、研修をうけて感じました。

◆所感◆ この研修を通して、自分自身が在日外国人教育の重要性を感じた。JICA の研修でも、このワークショップは何回か受けたが、いざ自分が研究を企画する側になって、難しかった。外国にルーツのある児童・生徒は、本市にも数名いる。「その子たちが抱える問題や背負っているものは何か」、私自身もう一度考え直し、研修に参加いただいた先生方にどのようにしたら自分たちの学校の身近な問題として考えることができるかに悩んだ。先生方の様子を見ると、「ジュン君の抱えている問題は何か?」「学校は、何を取り組むべきかな?」「保護者のケアも必要だと思う」など、真剣に取り組んでおられた。先生方のその姿をみられたことは、本研修のねらいが達成されたと思う。

3 時限目：初任者研修（フェアトレード） 人権教育研修（在日外国人教育）

ねらい…生産者にとって望ましい取引について考え、よりよい貿易のありかたについて考える。

◆内容◆

- ① フォトランゲージで、グループ分けを行う。
 - ・使用する写真は、ブラジルで撮影した写真（食品が移っている物）を使用し、日本にとっても「貿易」がどれだけ大切か考えるきっかけを作る。
- ② ワークショップ（いい貿易って何だろう?）を行う。
 - ・グループで「生産者一家」になる。
 - ・生産者一家は、「生産者一家の境遇カード」を読む。
 - ・各家は、正体部分をかくした4枚1組の「誘惑カード」を黙読する。また、一家では相談しない。
 - ・各家で自分たちが乗りたい誘惑を話し合い、結論を出す。
 - ・各家の結論を、発表する。
 - ・選んだ誘惑の中で一箇所のみを改善できるなら、どこを改善するか話し合う。
 - ・各家の結論を、発表する。
 - ・誘惑カードの正体を明かす。
- ③ ふりかえりとして、今回のワークショップを通して、フェアトレードを授業で扱うには、どのような工夫が必要か考える。



日本のお菓子



コーヒーの写真

！ココがポイント

- ▶ 誘惑カードの正体を明かすときには、生産者がワークショップのような様々な選択肢から選ぶのではなく、不満足な条件に自分たちの生活のために仕方なく応じることもあることを、十分におさえる。
- ▶ 参加された先生がたが、授業で使うにはどのようなポイントで使うかも解説する。(子どもたちが授業で考えるとき、消費者として食品を選択・購入する場合自分たちは、どんな点に注意すべきか考えることができる発問がポイントとなる→ ESD の観点)

4. 成果

今回の成果は、それぞれ違う観点で先生方にアプローチができたことだ。本市の課題である「授業改善」や「在日外国人教育」とも関連させながら、研修を立案・運営できたことは、教師海外研修を受けたことに大きな意味があったと思う。今回参加された先生方の中から、「早速授業で使ってみたい」という感想もあり、先生方の日々の授業を通して、子どもたちに「ESD の観点」や「人権意識の高まり」など、今後も学校現場で発展する期待がもてた。

5. 課題

参加された先生方が学校現場にどのように本研修を活かしているか効果検証の必要性を感じた。来年度以降も教師海外研修で学んだことを活かして、国際社会に貢献するために、日本人として何ができるかについて継続的に研修を実施していくことで、効果検証が可能になると考える。研修の内容として、例えば JICA が実施している国際協力出前講座を教員対象におこなったり、海外技術研修員の方々と交流をおこなったり等、開発途上国に対する理解や国際協力・多文化共生について考えるきっかけをつくりたい。

参考文献

『開発教育教材 コーヒーカップの向こう側』 特定非営利活動法人 開発教育教材

『市民学習実践ハンドブック - 教室と世界をつなぐ参加型学習 30- 』 特定非営利活動法人 開発教育

『チョコレートから世界が見える人権を基盤にした ESD 教材集』

財団法人アジア・太平洋人権情報センター

参考ホームページ URL

文部科学省 HP 日本ユネスコ委員会 <http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>

環境省+ ESD <https://www.p-esd.go.jp/top.htm>